文化情報誌

たわわ

2025 No.126

「**たわわ**」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



郷土芸能の「トントコトン」を次世代に



田村ばやし保存会

昭和５１年に平塚市の指定重要文化財となり、今年で５０周年をむかえる田村ばやし保存会の石川徳幸会長ほか保存会役員の皆さんにお話を伺いました。

●「田村ばやし」の発祥や歴史を教えていただけますか

歴史は古く、鎌倉時代まで遡ります。この田村という地に三浦豪族の館がありました。そこに縁のあった当時の藤原家の将軍が何度となく狩りに立ち寄ったそうです。その折に京都の楽人を伴い遊興し、その際に奏でた曲が元になったと言われています。諸説いろいろあるとは思いますが、私たちはそう聞いています。

●皆さんと「田村ばやし」の接点は？

今の保存会の役員の多くは「田村ばやし保存会」の一期生です。小学生の頃から「田村ばやし」を叩いていますね。皆、父や祖父が叩いていましたので、勧められて参加しました。当時のお年寄りや先輩が「お祭りの時にだけ叩いているのでは、廃れていってしまう」という焦りから、指導者を作り後継者を育成していくということで昭和５０年に「保存会」が発足しました。田村八坂神社とは親子のような絆で結ばれながら、今年でちょうど５０年を迎えることになりました。

●「田村ばやし」の編成、演奏や曲はどのようなものですか？

大太鼓が1台に締太鼓2台、笛、摺り鉦(すりがね)の４つで構成しており、5人で1チームです。曲は「屋台」「宮昇殿」「昇殿」「神田丸」「唐楽鎌倉」「仕丁舞」「印場」と7曲あります。全部演奏するのでだいたい２０～３０分程度の長さになります。それをチームで交代しながら演奏しますので、7曲全部叩くことができないといけません。



締太鼓

この7曲は時代によって多少の変化はありますが、基本は最初の京都の楽人が奏でた曲とあまり変わってはいません。旋律が代々受け継がれているのですが、実は譜面がありません！「言葉・文字」で表記して継承しています。リズムを「トントコトン」「タッタカトカスカ」みたいな言葉に表しています。微妙な「間」も言葉で伝えます。曲によって、叩く音が違うので当然表記も変わります。



言葉・文字の譜面

一度、市役所にご協力いただき、一音一音採譜し、五線音符で表した譜面を作成しましたが、こちらは保存用という位置づけで、教える時には使用せず、従来の「言葉・文字表記」をもっぱら使っています。

また、「右手2回・左手2回」など叩く手も指定しています。必須ではないのですが、皆の手が合っていたほうが叩いている姿がキレイに見えたり、流れの中で叩きやすくなるということもありますので、手を合わせるように指導しています。私たちの頃は、こういった文字表記で教えてもらっていましたが、いまの子どもたちは「動画」を撮影しています。この文字表記に加えて、「動画」も見るので覚えるのが早いですね。



公民館での披露

それでも7曲を大体叩けるようになるには、年間通して週一回程度のペースで練習して、１年くらいはかかりますね。

●「田村ばやし」の特徴をあげるとすれば？

ひとつには「オヒャラリ」「キリトリトロ」などと表記される「笛」が全体をリードしていきます。曲の切り替えも「笛」で変わります。「笛」のメロディに大太鼓や締太鼓がかぶさっていくように曲が展開していきます。

また、「田村ばやし」は田村地区内で「上町」「横宿」「下町」の３つの町に分かれています。曲は同じですが、微妙に違いがあり、町ごとに山車を出して、叩きながら競います。他の地域では地区の中で分かれることはないと思いますので、ここも違うところです

それから、「田村ばやし」には「印場踊り」という踊りがあります。「おかめ」「ひょっとこ」のお面をかぶって、景気よく踊るのですが、昨今は男の子が踊りに参加しなくなってしまい、「おかめ」の女の子だけになってしまいました。この踊りは「田村ばやし」の中に印場連という組織があって、そちらで教えています。

●これから「田村ばやし」をどのように続けていきますか？

私たちが習っていた時は、各町の家の軒先や物置が練習場でしたが、「田村ばやし」メンバーの一員になれるとワクワクしていました。役員になった今は時間もあるので、毎年の例大祭のために生きている感じがあります。子どもの頃のワクワク感がいまも持続しているのが大きいですね。やっぱり好きなんだと思います。保存会の会員は現在２００名ほどいます。実際に叩けるのは５０名程度ですけど。少子高齢化と言われていますが、「田村ばやし」については、お祭りや車山車を見て、「やりたい」「叩いてみたい」というお子さんが多くいて助かります。小学校の授業参観などでも披露していますので、地道な活動が奏功しているのかもしれません。女性も３割程度いますから、この点も心強いです。実際、今年の例大祭にも、２０代の女性が５～６人集まって、叩きに来てくれました。



ひらしん平塚文化芸術ホールでの演奏

他の地域では後継者がいないので困るという声を聞きますが、「田村ばやし」はありがたいことに盛り上がっています。そういう流れに乗りながら、今後も「湘南ひらつか七夕まつり」など市の行事には積極的に参加し、どんどん新しい取り組みを加えていきたいです。同時に後継者育成により力をいれ、新規メンバーはもとより指導者層の充実もはかり、１００年継続を目指していこうと思います。

【田村ばやし保存会】

鎌倉時代にそのルーツがあり、昭和５１年に平塚市の指定重要文化財となった「田村ばやし」を、後世に綿々と伝えていく地域に根ざした保存会。田村八坂神社と共にその歩みを進めている。石川会長以下、２００名のメンバーを誇り、今年は設立から５０年を数える節目の年となる。

木谷實（みのる）・星のプラザ通信❷

「木谷實・星のプラザの企画展示」
～囲碁と錦絵 ―水口コレクション―～



「木谷實・星のプラザ」（ひらしん平塚文化芸術ホール2階）では、4カ月ごとに展示内容を入れ替える「企画展示」を行っています。

今回は、囲碁文化研究家であり囲碁資料収集家でもあった水口藤雄氏から寄贈された物品のうち、囲碁が描かれた錦絵を中心に展示した企画展示「囲碁と錦絵 ― 水口コレクション ―」の一部を御紹介します。

「琴棋書画（きんきしょが）」



「琴・棋（囲碁）・書・画」は、昔中国で四芸と呼ばれ、当時の上流階級が身につけるべきものとして尊ばれました。画題としても好まれ、日本では室町時代以降に襖絵等で多く描かれています。本展示ではこれになぞらえて、松風（まつかぜ）（琴）、玉鬘（たまかずら）（書）、榊（さかき）（画）、空蝉（うつせみ）（棋）の4点を展示しました。

囲碁と歌舞伎の役者絵



江戸時代に流行った「隅田川下り」に興じる歌舞伎役者たちを描いた絵の中には、船中で囲碁を打つ人もおり、囲碁が当時の娯楽であったことがうかがえます。

囲碁と源氏物語



古くから親しまれていた囲碁は、「源氏物語」にも登場し、印象的に描かれています。

碁石に見立てた鳥の錦絵



黒石と白石で対局を行う囲碁が、カラス（黒）とサギ（白）に見立てて「烏鷺（うろ）」と呼ばれることになぞらえて、黒い鳥と白い鳥が描かれた作品を3点展示しました。

企画展示情報

開催期間：令和7年10月1日㈬～令和8年1月30日㈮
企画内容：「木谷實の地方回り指導碁と子どもたちとの出会い」

新しい国際交流員のゲセヴィチュ・ヴィクトリヤさんが着任しました❣



こんにちは！新任のCIR（国際交流員）として、平塚市役所の文化・交流課に配属されたゲセヴィチュ・ヴィクトリヤと申します。リトアニア共和国の首都ヴィリニュス出身です。イギリスのニューカッスル大学で日本語とビジネスを勉強しながら、日本の歴史、文学、伝統、文化についてたくさん学びました。在学中に広島に一年間留学することもできました。

その留学が初めての来日でしたが、そのときに日本の美景、日本食の美味しさ、日本人のおもてなしと優しさに感動しました。また、宮島を訪れた時に、まるで異世界にいるかのように感じた印象は一生忘れません。

留学を終えてイギリスに帰国し、大学を卒業しました。その後、日本で社会人生活も体験したいと思い、大阪の会社で2年2か月間働きました。大阪での生活はペースが速く街が鮮やかで、人もすごく温かくて面白かったので、素晴らしい経験になりました。「関西弁も少し話せるようになったんやで～！」

私が日本に興味を持ったきっかけは、小さい頃からテレビで日本のアニメを見たり、日本のビデオゲームをしたことでした。ゲームからは日本語の「文字」を、アニメからは日本語の素敵な「響き」を学び、大変興味が湧きました。

これからの平塚市での生活と仕事は私にとって大変貴重な経験になると思うので、ワクワクしています。また、カウナス市と平塚市の絆をより深く、温かく出来るよう、心を込めて頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします！



ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポートVol.8

ひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、さまざまなジャンルの事業の様子をお届けする主催事業レポート。第８弾の今回は、「みんな集まれ！オープンシアター」をご紹介します。

「みんな集まれ！オープンシアター」は、ひらしん平塚文化芸術ホール全館を利用して、ホールを知って頂き、気軽に文化芸術に触れてもらえる１日となるように、コンサートやパフォーマンス、ワークショップ、体験、バックステージツアーなどを開催する、施設の特性を活かした大規模なイベントです。

令和７年８月２日㈯には第４回目として、「家族で楽しむアート体験」をテーマに開催されました。当日大盛況だった各部屋の様子をお届けします。

まず、施設のメインである大ホールでは、アンサンブルグループ「オトハコ」によるファミリーコンサートが午前、午後と２回行われ、誰もが知っている有名曲や観客みんなで歌える曲、家族の絆を歌った思わず泣ける曲などを披露して盛り上がりました。

座席の無い広い空間が魅力の多目的ホールでは、元気な「ゴリラせんせい」のダイナミックな紙芝居口演や「一色音楽教室」のリトミックを開催し、子どもたちが全身を動かしながら楽しんでいました。

出入口が近く往来の多いエントランスホールには「ひらつか障がい福祉ショップありがとう」のパンや焼き菓子、「にじいろパスポート」の可愛いオリジナル雑貨の販売や、華やかな絵柄を体に優しい絵の具で描く、「ほっぺショップ」のフェイスペイントがあり、賑わっていました。

神出鬼没な「つるつるバルーン」のちょっと変わったバルーンアートは常に行列ができ、あちこちで集まって互いにバルーンを見せ合うなど微笑ましい光景が広がっていました。

２階の文化芸術支援室では「ちょっきんぺったんLab」による自然を感じるアートの常設展示やワークショップが開催され、１階の混雑を離れてのんびりと自由な発想で芸術に親しむ親子の姿が見られました。

午後になると、和と洋の楽器のコラボレーションが美しい「汐彩カルテット」による夏の名曲ミニコンサートや、毎年大好評の「大ホールの裏側見学ツアー」も開かれ、施設中で笑顔の絶えない一日となりました。

今後も「みんな集まれ！オープンシアター」では皆様に文化芸術に親しみを持ってもらえるよう、誰もが気軽に参加でき、楽しめるイベントを開催してまいります。次回の開催をお楽しみに。







あったかひらつか

発行 平塚市文化・交流課
〒254－8686　平塚市浅間町９－１
電話 0463-32-2235
FAX 0463-21-9756
E-mail：bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和７年(2025年)10月15日発行

右の２次元コードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課までご一報ください。

■平塚市文化振興基金にご寄付くださった方

[令和7年(2025年)2月1日から9月30日まで]

●令和７年(2025年)７月29日
株式会社JR横浜湘南シティクリエイト

※敬称略